

第70回奥羽大学歯学会 プログラム・予稿集

日時：令和3年11月13日(土) 8:55～12:10

口演発表 (学位口演発表) 9:00～10:40

口演発表 (一般口演発表) 10:50～12:10

Zoomミーティングによるオンライン開催

連絡先：福島県郡山市富田町三角堂31-1

☎024-932-8931

奥羽大学歯学会

第70回奥羽大学歯学会プログラム

8:55 開会の辞

大野 敬 会長

一口演発表(学位口演発表 4演題)

9:00~9:40

座長 廣瀬 公治

1. ムチン4強制発現が及ぼす影響の解析

○内山梨夏^{1,2}、前田豊信^{1,3}、鈴木厚子³、松本知生²、加藤靖正^{3,4}、山森徹雄^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔機能回復学¹、奥羽大・歯・歯科補綴²、
奥羽大・歯・口腔機能分子生物学³、奥羽大・大学院・口腔生理・生化⁴)
研修コード1107 関連項目 (1) 0699 (2) 0799

2. 全身性のカンジダ症における宿主の免疫応答

○井ノ上靖尊¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔感染症学¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御学²)
研修コード1104 関連項目 (1) 1103 (2) 0306

3. Non-*albicans Candida* spp. 感染における宿主の炎症性サイトカインの産生動態

○中野貴覚¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔感染症学¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御学²)
研修コード1104 関連項目 (1) 1103 (2) 0306

4. マウスカンジダ症モデルを用いた*Candida glabrata*の病原性の解析

○伊波良将¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔感染症学¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御学²)
研修コード1104 関連項目 (1) 1103 (2) 0306

一口演発表(学位口演発表 5演題)

9:50~10:40

座長 原田 卓哉

5. 常温重合レジンの操作が諸性質に及ぼす影響—支台への仮着強さについて—

○大木達也、松本英莉、齋藤龍一、石田喜紀、岡田英俊
(奥羽大・歯・生体材料)
研修コード1003 関連項目 (1) 0407 (2) 1109

6. リン酸濃度と処理時間の違いがレジン接着強さに及ぼす影響

○齋藤龍一、松本英莉、大木達也、石田喜紀、岡田英俊
(奥羽大・歯・生体材料)
研修コード0413 関連項目 (1) 1002 (2) 1003

7. プロポフォルを用いた静脈内鎮静法が顎・舌下腺および口唇腺に及ぼす影響

○増田敬介、川合宏仁
(奥羽大・大学院・口腔生理・生化)
研修コード1106 関連項目 (1) 1105 (2) 0502

8. 歯科用コーンビームCTによる下顎第二大臼歯の歯根および根管形態の観察
○重藤良平、宇佐美晶信
(奥羽大・大学院・口腔機能解剖)
研修コード1101 関連項目 (1) 0202 (2) 0401

9. 歯科用コーンビームCTによる下顎切歯根管形態の観察
○青木克行、宇佐美晶信
(奥羽大・大学院・口腔機能解剖)
研修コード1101 関連項目 (1) 0202 (2) 0401

一口演発表(一般口演発表 4演題)

10:50 ~ 11:30

座長 佐々木 重 夫

10. キッツキコントラを使用したガッタパーチャポイント除去効果に対する検討
○北原 海、橋本昌典、大木英俊、小鷲啓典、千葉駿一郎、勝田拓磨、野口紗瑛、
浦澤里緒、新妻歩実、宇治川竜也、根本華名子、野口太照、菊井徹哉、山田嘉重
(奥羽大・歯・歯科保存)
研修コード0410 関連項目 (1) 0409 (2) 0499

11. 新たな器具キッツキエンドコントラの評価
○金澤朋昭¹、橋本有加¹、山田嘉重¹、木村裕一¹、佐藤穂子¹、
長崎慶太¹、神庭一郎¹、茂呂有司¹
(奥羽大・歯・歯科保存¹)
研修コード0410 関連項目 (1) 0409 (2) 0401

12. コロナ禍で行った歯周病治療 一般開業医の対応
○宮尾益佳
(宮尾歯科クリニック)
研修コード0501 関連項目 (1) 0306 (2) 0901

13. セメント質剥離を伴う重度慢性歯周炎部位に歯周組織再生療法を適応した3症例
○山崎厚作¹、山崎幹子²、高橋慶壮¹
(奥羽大・歯・歯科保存¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御・口腔病理²)
研修コード0501 関連項目 (1) 0901 (2) 0703

一口演発表(一般口演発表 3演題)

11:40 ~ 12:10

座長 清 野 晃 孝

14. 医療的ケアが必要な小児の実態調査
○舟山敦雄、沼倉哲也、角田 望、石橋奈美、神庭優衣、加川千鶴世、島村和宏
(奥羽大・歯・成長発育歯)
研修コード0804 関連項目 (1) 0801 (2) 0905

15. 高齢者施設でのデンチャーマーキングの取り組み

○梅村浩二郎¹、金子正慶¹、鈴木海路¹、渡部議之¹、渡邊 聡¹、
小松憲明¹、佐藤健太¹、山家尚仁¹、北條健太郎²、鈴木史彦²
(奥羽大・歯・病院¹、奥羽大・歯・口腔外科²)

研修コード0109 関連項目 (1) 0805 (2) 0806

16. アライナー型矯正装置によって改善した前歯部開咬症例

○松山仁昭
(松山矯正歯科新宿御苑クリニック)
研修コード0802 関連項目 (1) 0899

12:10 閉会の辞

清浦有祐 副会長

口 演 発 表 抄 録（一般口演発表）

9 : 00 ~ 9 : 40

1. ムチン4強制発現が及ぼす影響の解析

○内山梨夏^{1,2}、前田豊信^{1,3}、鈴木厚子³、松本知生²、加藤靖正^{3,4}、山森徹雄^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔機能回復学¹、奥羽大・歯・歯科補綴²、
奥羽大・歯・口腔機能分子生物学³、奥羽大・大学院・口腔生理・生化⁴)

ムチンのコアタンパク質 (MUC) には多様性があるが、その多様性は、プロセッシングによるバリエーションの存在によりヒトでは少なくとも20種類が確認されている。このうち MUC4は、近年 HER2と関連してアポトーシスの抑制に関与することなどが指摘されている。本研究では唾液にも多く含まれる MUC4を細胞に発現することで、MUC4の機能について解析を試みた。その結果、BL6細胞に MUC4を発現させた条件下にすることで HER2の遺伝子発現量が有意に増加した。

研修コード1107 関連項目 (1) 0699 (2) 0799

2. 全身性のカンジダ症における宿主の免疫応答

○井ノ上靖尊¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔感染症学¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御学²)

真菌の *Candida albicans* は、日和見感染微生物であるため、強い病原性は発揮しないとされている。しかし、カンジダ血症のような全身性のカンジダ症が惹起した場合には重篤な症状を呈する。我々は、このような病態には宿主の免疫応答が大きく影響していると考えている。マウスに *Candida albicans* を投与して全身性のカンジダ症を起こさせたところ、炎症反応を促進するサイトカインが高く産生されることを認め、*Candida albicans* の病原性に関わると推察できた。

研修コード1104 関連項目 (1) 1103 (2) 0306

3. Non-*albicans Candida* spp.感染における宿主の炎症性サイトカインの産生動態

○中野貴覚¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔感染症学¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御学²)

Candida albicans 以外のカンジダ属である non-*albicans Candida* spp. は重篤なカンジダ血症の原因菌として注目されている。その中の *Candida tropicalis* は、マウスの感染実験でも高い致死性を示した。このような病原性が発揮されるメカニズムを明らかにする過程で、*Candida tropicalis* によって産生が誘導されるサイトカインは、特定のサイトカインにシフトしていることが明らかになった。サイトカインの選択的産生は、*Candida tropicalis* のような non-*albicans Candida* spp. の病原性の発揮に関係していると考えられる。

研修コード1104 関連項目 (1) 1103 (2) 0306

4. マウスカンジダ症モデルを用いた*Candida glabrata*の病原性の解析

○伊波良将¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}

(奥羽大・大学院・口腔感染症学¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御学²)

Candida glabrata は、non-*albicans Candida* spp. の中でも重篤なカンジダ血症の原因菌とされる。我々は *Candida glabrata* の病原性をサイトカイン産生能や正常及び免疫不全マウスに対する致死性で明らかにすることを試みた。その結果、*Candida glabrata* は正常及び免疫不全マウスに対しては致死性を発揮したが、感染マウスが産生するサイトカインの様態は、他の *Candida* spp. と大きく異なっていた。このことから同じ *Candida* spp. であっても惹起されるカンジダ症の病態は、菌種によって違った経過を示すと考えられる。

研修コード1104 関連項目 (1) 1103 (2) 0306

9 : 50 ~ 10 : 40

5. 常温重合レジンの操作が諸性質に及ぼす影響 – 支台への仮着強さについて –

○大木達也、松本英莉、齋藤龍一、石田喜紀、岡田英俊

(奥羽大・歯・生体材料)

歯科治療において、常温重合レジンによる暫間補綴装置が使用される。作製時の操作方は口腔内の状況や術者により異なる。操作方法を変えると、機械的性質などの様々な物性が変化すると推察される。本研究では保管温度の異なるブリッジ形態の試料をそれぞれ作製し、支台金型へ仮着をおこなった後の静的条件と動的条件における支台への仮着強さ（保持力）にどのような影響を及ぼすか調査した。

研修コード1003 関連項目 (1) 0407 (2) 1109

6. リン酸濃度と処理時間の違いがレジン接着強さに及ぼす影響

○齋藤龍一、松本英莉、大木達也、石田喜紀、岡田英俊

(奥羽大・歯・生体材料)

現在接着システムはワンステップが主流であるが、リン酸による前処理を行うことでより高い接着強さを示すことが多く報告されている。しかし、これはエナメル質に限定されたものであり、象牙質では却って接着強さの低下を招くとされている。だが、これらのケースはエナメル質への使用を想定した条件での実験結果であり、象牙質を適切に脱灰する濃度や処理時間を調べた報告は少ない。そこで本研究はトータルエッチングを想定しエナメル質及び象牙質に適切なリン酸濃度と処理時間を明らかにすることを目的とした。

研修コード0413 関連項目 (1) 1002 (2) 1003

7. プロポフォールを用いた静脈内鎮静法が顎・舌下腺および口唇腺に及ぼす影響

○増田敬介、川合宏仁
(奥羽大・大学院・口腔生理・生化)

近年、歯科治療や口腔外科手術に対し、プロポフォールを用いた静脈内鎮静法が用いられている。プロポフォールは、歯科恐怖症や異常絞扼反射をもつ患者に有効であるものの、歯科治療中では唾液の排除が必要となる。一方、プロポフォールは、中枢性の GABA_A 受容体に結合することによってその薬理作用を発揮するものの、高齢者を対象とした研究では、口渇や口腔乾燥症が末梢性の GABA_A 受容体を介して発症すると報告されている。そこで、静脈内鎮静法に用いられるプロポフォールが、顎・舌下腺および下顎口唇腺の唾液分泌に、どのような影響を与えるのかを調べたので報告する。

研修コード1106 関連項目 (1) 1105 (2) 0502

8. 歯科用コーンビームCTによる下顎第二大臼歯の歯根および根管形態の観察

○重藤良平、宇佐美晶信
(奥羽大・大学院・口腔機能解剖)

槿状根においては根管が癒合して複雑な形態を呈することがある。今回歯科用コーンビーム CT で撮影された下顎第二大臼歯の撮影データより歯根数の観察と、歯根の根尖側 1 / 3 の位置で根管数の計測をおこなった。その結果、槿状根の出現率は35.3%であった。男女別では女性で多くみられた。また、根管形態は連続した C 字型のものが最も多かった。このことより多様な下顎第二大臼歯の形態を評価するためには CBCT が有用であると考えられた。

研修コード1101 関連項目 (1) 0202 (2) 0401

9. 歯科用コーンビームCTによる下顎切歯根管形態の観察

○青木克行、宇佐美晶信
(奥羽大・大学院・口腔機能解剖)

下顎切歯には2根管存在することがあることが知られている。今回、歯科用コーンビーム CT (以下 CBCT) にて撮影された下顎中切歯及び側切歯の歯根の歯頸側 1 / 3、中央及び根尖側 1 / 3 の根管数について、画像データから計測を行なった。年齢別の根管形態は30歳未満に比べ30歳以上の群で2根管観察されたものが多かった。このことより根管形態を正確に把握する上で CBCT での評価をおこなうことが有用であると考えられた。

研修コード1101 関連項目 (1) 0202 (2) 0401

10：50～11：30

10. キッツキコントラを使用したガッタパーチャポイント除去効果に対する検討

○北原 海、橋本昌典、大木英俊、小鷲啓典、千葉駿一郎、勝田拓磨、野口紗瑛、
浦澤里緒 新妻歩実 宇治川竜也 根本華名子 野口太照 菊井徹哉、山田嘉重
(奥羽大・歯・歯科保存)

根管充填を施した歯の再根管処置に際してのガッタパーチャポイントの除去は通常手用ファイルが使用されるが、除去に時間を要するのが問題となる。

今研究では新たな根管治療用器具とし販売されたキッツキコントラを用いて根管に填塞してあるガッタパーチャポイントの除去効果の可否・効率性や安全性を検討した。その結果手用切削器具を使用する場合に比べガッタパーチャ除去時間が短縮された。その一方、根尖孔部の破壊を誘発する危険性についても確認された。

研修コード0410 関連項目 (1) 0409 (2) 0499

11. 新たな器具キッツキエンドコントラの評価

○金澤朋昭¹、橋本有加¹、山田嘉重¹、木村裕一¹、佐藤穂子¹、
長崎慶太¹、神庭一郎¹、茂呂有司¹
(奥羽大・歯・歯科保存¹)

歯科の根管治療において、長時間の治療時間は術者及び患者の負担になっていると考えられる。このたび、新しく開発されたキッツキコントラを使用し、テーパーの異なる歯根着色模型を使用した場合に適した回転数の評価を行い、根管内に相当する位置の着色の除去具合を場所で区切って数値化した。その結果、根尖孔相当部から根管口相当部に沿って全周ファイリングが可能な回転数が判明し、術者と患者に負担をかけない迅速な歯科治療の可能性が示唆された。

研修コード0410 関連項目 (1) 0409 (2) 0401

12. コロナ禍で行った歯周病治療 一般開業医の対応

○宮尾益佳
(宮尾歯科クリニック)

新型コロナウイルスが出始めた頃、歯の治療をためらい診療キャンセル続出という報道がみられた。アメリカの新聞記事では新型コロナウイルスの感染リスクに最も直面している労働者は歯科関係者だと報じられた。

最近の研究で歯周病は新型コロナウイルスの重症化に關与する可能性が示唆された。歯科治療は不要不急ではない。

歯科治療は本当に新型コロナウイルス感染リスクが高いのか当医院の取り組みと症例をご覧ください、一緒に考えたい。

研修コード0501 関連項目 (1) 0306 (2) 0901

13. セメント質剥離を伴う重度慢性歯周炎部位に歯周組織再生療法を適応した3症例

○山崎厚作¹、山崎幹子²、高橋慶壮¹

(奥羽大・歯・歯科保存¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御・口腔病理²)

セメント質剥離は根尖方向への細菌の侵入を容易にし、高度な歯周組織破壊を急速に生じさせる。今回報告する三症例は術前に診断できなかった「不顕性セメント質剥離」であり、診断と治療を同時に行ったことから、一種の「診断的治療」と言える。

パラファンクションの管理下で歯周組織再生療法を適応後、歯周ポケットの再発や歯周炎の進行を示す臨床およびエックス線所見は認めず、経過良好である。

研修コード0501 関連項目 (1) 0901 (2) 0703

11:40～12:10

14. 医療的ケアが必要な小児の実態調査

○舟山敦雄、沼倉哲也、角田 望、石橋奈美、神庭優衣、加川千鶴世、島村和宏

(奥羽大・歯・成長発育歯)

医療的ケア児とは、日常生活及び社会生活を営むために恒常的に医療的ケアを受けることが不可欠である児童をいう。医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律も制定されているものの、実際の子どもたちの状況についてはまだまだ情報が不足しており、地域での活動は十分とはいえない。そこで、福島県内の医療的ケア児の現状を把握する目的で、県内各市町村に医療的ケアが必要な小児の状況について調査を行ったので、その概要を報告する。

研修コード0804 関連項目 (1) 0801 (2) 0905

15. 高齢者施設でのデンチャーマーキングの取り組み

○梅村浩二郎¹、金子正慶¹、鈴木海路¹、渡部議之¹、渡邊 聡¹、

小松憲明¹、佐藤健太¹、山家尚仁¹、北條健太郎²、鈴木史彦²

(奥羽大・歯・病院¹、奥羽大・歯・口腔外科²)

高齢者施設における入所者の義歯管理方法や清掃方法は、各施設や個人の認知能力などによって異なっている。そのような環境の中、自分自身の義歯であっても同様の形状をした他人の義歯と見分けが付きにくいこともあり、本人や施設職員による義歯の取り違えは起こる。

当科では取り違え防止のため、訪問診療を実施している高齢者施設の入所者に対してデンチャーマーキングを実施している。その活動内容について報告する。

研修コード0109 関連項目 (1) 0805 (2) 0806

16. アライナー型矯正装置によって改善した前歯部開咬症例

○松山仁昭

(松山矯正歯科新宿御苑クリニック)

前歯部開咬は垂直的な不正咬合であり改善が難しい。前歯部開咬の原因は臼歯部の高位と臼歯部の高位による下顎の回転が考えられる。咬合の改善には臼歯部の圧下が効果的である。しかし、大臼歯の圧下は歯の移動様式の中で一番困難であるとされている。

アライナー型矯正装置は大臼歯部の圧下を効果的に行うことが可能である。

前歯部開咬症例に対してアライナー型矯正装置と抜歯法を適用し、咬合の改善を行った。

研修コード0802 関連項目 (1) 0899

第71回奥羽大学歯学会予定
日時：令和4年6月18日(土)

—歯学会学会委員—

福井和徳(成長発育歯)*、金 秀樹(口腔外科)*、宇佐美晶信(生体構造)*、
山崎信也(口腔外科)、島村和宏(成長発育歯)、菊井徹哉(歯科保存)、
車田文雄(口腔衛生)、前田豊信(口腔機能分子)、古山 昭(口腔機能分子)、
大橋明石(口腔衛生)、御代田駿(口腔外科)、千葉駿一郎(歯科保存)

*学会理事
